

自然教育園の動物目録の追録と 稀種動物の日撃記録 (13)

久 居 宣 夫*

Notes on Newly or Rarely Observed Animal Species
in the Institute for Nature Study (13)

Nobuo Hisai*

は じ め に

今回は、2000年1月～2000年12月に新たに生息が確認されたり、目撃された種あるいは前報(久居, 2000)までに記録がもれた種について報告する。稀種については、「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1984)中で、r: “稀”, または(r): “古い記録はあるが、現在未確認の種”とされている全ての種を対象にしたが、これら以外にも最近特に個体数や目撃記録が著しく減少した一部の種も対象とした。

なお、学名及び和名などは原則として上記の目録に準拠した。カッコ内の日付は目撃あるいは捕獲した西暦年月日と目撃または捕獲地点及び目撃者、捕獲者名を示し、氏名のない場合は著者の記録によるものを示す。また、VTRと記してあるのは、建物跡地にある通称「カワセミの池」脇に設置されているビデオ装置によって撮影された動物を後日記録したものである。

本報告をまとめるにあたって、日頃より種々のご教示と同定をいただいている東洋大学の太田正男教授ならびに貴重な記録を提供してくださった方々に感謝の意を表する次第である。

1. 追 録

Vertebrata 脊椎動物門

Osteichthyes 硬骨魚綱

Lepomis macrochirus Rafinesque ブルーギル (スズキ目 バス科) (2000.6.18 奥津励・大澤陽一郎氏; 6.23 奥津励氏; 6.25 奥津励・大澤陽一郎氏; 6.28 矢野亮氏 以上水生植物園)

本種は、水生植物園(図1参照)で四つ手網によって体長5～6cmの幼魚が1個体捕獲されたのが最初である。その後、水生植物園では体長10cm以上のものを含む50個体程が捕獲されている。この中には体長が1cm程度の稚魚も多くいたことから、同所で繁殖しているのは確実であろう。

本種は北米原産の帰化種であり、現在は移入されたものが放流され、関東・関西・四国などに分布を

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

拵げている。ミシガン湖では1年で8 cm, 以後11cm, 13cmと成長するといわれていることから(宮地他, 1976), 本園には1999年以前に放逐されたと考えられる。

食性はプランクトンから底生動物まで幅広く, また魚卵や小魚もよく捕食するので, 今後水生植物園内に生息するメダカやモツゴなどへの影響が懸念される。

Aves 鳥綱

Garrulax canorus (Linnaeus) ガビチョウ(スズメ目 チメドリ科) (2000.9.24 水生植物園 武藤幹生・大澤陽一郎氏)

今回は本種の特徴的な鳴き声による記録であり, 姿は確認されなかった。

本種は中国原産の帰化種で, 飼い鳥として移入されたものが放逐され, 野生化したものである。1980年代から

日本各地での目撃例が増え(多田, 2000), 本州では福島・東京・神奈川・山梨などの丘陵地や平野部の低地林に生息する(日本鳥類目録編集委員会, 2000)。

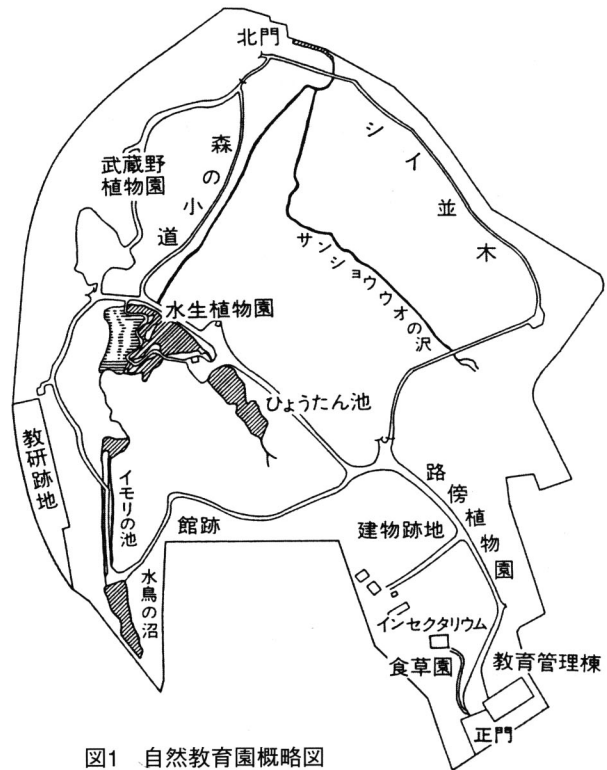


図1 自然教育園概略図

2. 稀種の記録

(1) 昆虫類

Ceriatrion nipponicum Asahina ベニイトトンボ(蜻蛉目 イトトンボ科) (2000.8.27 水生植物園 加藤泰史・工藤寿雄氏)

本種は水生植物園で稀に見られる。今回は1990年7月以来の記録で1♂が目撃された。

Cryptotympana facialis facialis Walker クマゼミ(半翅目 セミ科) (2000.8.9 水生植物園 大澤陽一郎氏; 8.12 水生植物園 矢野亮氏; 8.20 食草園 矢野亮氏; 8.24 水生植物園 矢野亮氏)

Papilio machaon hippocrates C.et.R. Felder キアゲハ(鱗翅目 アゲハチョウ科) (2000.8.19 水生植物園)

本種は長期間にわたり見られなかったが, 1999年に水生植物園で再確認された(久居, 2000)。

今回は水生植物園のノダケで3~4齢幼虫が10数個体見られ, 前年に続き繁殖が確認された。

Papilio belenus nicconicolens Butler モンキアゲハ(鱗翅目 アゲハチョウ科) (2000.7.9 路傍植物園)

Papilio macilentus Janson オナガアゲハ (鱗翅目 アゲハチョウ科) (2000.8.12 正門付近 矢野亮氏 ; 10.8 水生植物園 ; 10.27 水生植物園)

本種は「昆虫目録」(鶴田他, 1952) に登載されておらず、萩原信介氏が1981.5.27 に現業舎付近で捕獲した標本に基づき「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1984) に記録されたのが最初である。しかし、その後、本種は全く記録されていなかった。今回、正門付近で1 ♀が捕獲されたほか、秋には水生植物園のタイアザミで吸蜜している個体が目撃され、園内で繁殖している可能性がある。幼虫の食餌植物はミカン科のコクサギ・カラタチ・サンショウ・カラスザンショウなどであるが、これらのうち本園に普通に生育しているコクサギがもっとも好まれるという(福田他, 1982)。

Colias erate poligraphus Motschulsky モンキチョウ (鱗翅目 シロチョウ科) (2000.9.1 水生植物園 三枝近志氏)

かつては普通種であった(桜井他, 1972) が、最近はほとんど目撃されていない種である。今回は水生植物園で新鮮な♂が見られた(図2)。幼虫の食餌植物のアカツメクサ・クサフジなどは園内に普通にある。

Narathura japonica japonica (Murray) ムラサキシジミ (鱗翅目 シジミチョウ科) (2000.11.5 食草園)
本種は毎年ではないが稀に見られる。

Japonica lutea lutea (Hewitson) アカシジミ (鱗翅目 シジミチョウ科) (1999.5.18 三枝近志氏 ; 2000.5.26 有田豊氏 以上武蔵野植物園)

本種は1958年に目撃されて以来(桜井他, 1972)、その後全く記録がなかった。しかし昨年三枝氏により、さらに本年有田氏によって、いずれも武蔵野植物園で成虫が確認された。現在園内でわずかながらも繁殖している可能性がある。

Rapala arata (Bremer) トラフシジミ (鱗翅目 シジミチョウ科) (2000.4.19 食草園, 7.6 路傍植物園)
個体数は少ないが、毎年目撃される。

Curetis acuta paracuta Nicéville ウラギンシジミ (鱗翅目 シジミチョウ科) (2000.4.13 水鳥の沼付近 矢野亮氏 ; 4.19, 9.21 食草園 ; 9.24 水生植物園 ; 9.25 食草園 ; 10.27 路傍植物園)
10.27 は新鮮な♀の記録である。

Libythea celtis celtoides Fruhstorfer テングチョウ (鱗翅目 テングチョウ科) (2000.4.19 食草園)

Parantica sita nipponica (Moore) アサギマダラ (鱗翅目 マダラチョウ科) (2000.10.8 水生植物園)
水生植物園のタイアザミで新鮮な個体が吸蜜していた。

Argynnis paphia tsushimana Fruhstorfer ミドリヒョウモン (鱗翅目 タテハチョウ科) (2000.9.10 矢野亮氏 ; 9.12, 9.13 2 個体 吉井三恵子氏 ; 9.24 以上路傍植物園 ; 10.8 水生植物園)

本種は秋に飛来した個体がときどき目撃される。今回は、前翅及び後翅の欠損の状態から上記の期間中に3個体が飛来し、タイアザミの花で吸蜜しているのが観察された(図3)。

Kaniska canace (Linnaeus) ルリタテハ (鱗翅目 タテハチョウ科) (2000.4.18 水生植物園 矢野亮氏; 5.5 水生植物園 藤村仁氏; 8.3 水生植物園及び食草園 矢野亮氏; 8.12, 8.23 食草園 矢野亮氏; 8.25 インセクトarium付近 矢野亮氏)

本種もここ数年よく目撃される。8.3は水生植物園と食草園で別個体が目撃された記録である。

Vanessa indica indica (Herbst) アカタテハ (鱗翅目 タテハチョウ科) (1999.5.29 三枝近志氏; 2000.10.19 路傍植物園 桑原香弥美氏; 10.27 水生植物園)

1995年以後は毎年のように観察される。

Melanitis phedima oitensis Matsumura クロコノマチョウ (鱗翅目 ジャノメチョウ科) (2000.10.27 教育管理棟裏 吉井三恵子氏; 11.4 インセクトarium付近 三枝近志氏; 11.14 教育管理棟裏マツ林 矢野亮氏);

本種も近年毎年のように観察される(図4)。

Prosopocoilus inclinatus (Motschulsky) ノコギリクワガタ (鞘翅目 クワガタムシ科) (2000.7.19 武蔵野植物園 三枝近志氏)

今回の記録は、三枝氏によって武蔵野植物園で1♀が捕獲されたものである。

本種は「昆虫目録」(鶴田他, 1952)に登載されているが、その後は全く記録されていない。今回得られた記録は園内での繁殖個体か、あるいは夜間に他所から飛来してきたものか、入園者などによる放逐個体かは不明である。

(2) その他

Trionyx sinensis japonicus Temminck et Schlegel スッポン (カメ目 スッポン科) (2000.6.1 水生植物園 奥津励氏)

現在水生植物園には少なくとも3個体のスッポンが生息しているのが確認されている。

上記は、このうちの1個体が水生植物園のベンチ前で産卵していた時の記録である。

後日、この場所を掘って調べた結果29卵産卵していた。

Gekko japonicus Duméril et Bibron ニホンヤモリ (トカゲ目 ヤモリ科) (正門付近)

教育管理棟脇の案内板裏でよく目撃される。本年は1.5 ~ 12.20 に最多7個体が観察され、さらに、9.13には上記の場所で2卵産付されているのが確認された。

Elaphe conspicillata (Boie) ジムグリ (トカゲ目 ナミヘビ科) (2000.5.6 教育管理棟付近の路傍)

本種も最近しばしば目撃されているヘビの一種である。

Aythya ferina (Linnaeus) ホシハジロ (ガンカモ目 ガンカモ科) (2000.1.4 ~1.14 水生植物園及び水鳥の沼 藤村仁・武藤幹生氏)

上記の期間中 1 ♀が観察された。

Milvus migrans (Boddaert) トビ (ワシタカ目 ワシタカ科) (2000.11.5 コナラ林 藤村仁氏)

Accipiter nisus nisosimilis (Tickell) ハイタカ (ワシタカ目 ワシタカ科) (2000.10.13 現業舎付近 藤村仁氏; 11.7 水生植物園 武藤幹生氏)

11.7の記録は水生植物園の上空を飛翔していた 1 ♂を目撃したものである。

Falco tinnunculus interstinctus Horsfield チョウゲンボウ (ワシタカ目 ハヤブサ科) (2000.10.5 高速道路付近 箕輪義隆氏)

Cuculus poliocephalus poliocephalus Latham ホトトギス (ホトトギス目 ホトトギス科) (2000.6.4 水生植物園 武藤幹生氏)

囀りによる記録。

Dendrocopos major hondoensis (Kuroda) アカゲラ (キツツキ目 キツツキ科) (2000.5.2 森の小道 武藤幹生氏)

地鳴きによる記録。

Apus affinis subfurcatus (Blyth) ヒメアマツバメ (アマツバメ目 アマツバメ科) (2000.12.8 路傍植物園 藤井幹氏)

路傍植物園の上空を飛翔していた個体の記録である。

Tarsiger cyanurus cyanurus (Pallas) ルリビタキ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.2.29 インセクタリウム付近 武藤幹生氏; 12.9 建物跡地付近 藤村仁氏)

2.29は♂, 12.9は♀の記録である。

Turdus dauma aureus Holandra トラツグミ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.1.28 サンショウウオの沢付近; 2.26 カワセミの池付近 以上藤村仁・武藤幹生氏)

1.28は囀りによる記録で, 2.26はオオタカによって捕食された個体の記録である。

Turdus obscurus Gmelin マミチャジナイ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.11.7 武藤幹生氏)

地鳴きによる記録。

Acrocephalus bistrigiceps Swinhoe コヨシキリ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.6.4 水生植物園 武藤幹生氏)

囀りによる記録。

Acrocephalus arundinaceus orientalis (Temminck et Schlegel) オオヨシキリ (スズメ目 ヒタキ科)
(2000.5.11, 5.12 水生植物園 菅原十一・武藤幹生氏)

囀りによる記録。

Phylloscopus borealis xanthodyas (Swinhoe) メボソムシクイ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.9.28 正門付近)
教育管理棟前で気絶していた個体を保護し、翌日放鳥した。

Phylloscopus tenellipes Swinhoe エゾムシクイ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.4.25 正門付近 藤村仁・
武藤幹生氏; 4.26 三叉路付近 武藤幹生氏)

いずれも囀りによる記録である。

Phylloscopus occipitalis coronatus (Temminck et Schlegel) センダイムシクイ (スズメ目 ヒタキ科)
(2000.4.22 三叉路付近, 4.26 武蔵野植物園, 4.28 ひょうたん池付近, 5.2 実験畑, 5.10 水生植物園 以上武藤幹生氏)

4.26は2個体の目撃記録で、その他は囀りによる記録である。

Ficedula narcissina narcissina (Temminck) キビタキ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.4.28 森の小道, 10.5
サンショウウオの沢 以上武藤幹生氏; 10.7 V T R; 10.8 ひょうたん池 藤村仁氏)

10.8は1♂と2♀が目撃された。

Cyanoptila cyanomelana cyanomelana (Temminck) オオルリ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.5.2 ひょうたん
池 武藤幹生氏; 10.8 ひょうたん池 藤村仁氏)

5.2は囀りによる記録で、10.8は1♀の目撃記録である。

Muscicapa sibirica sibirica Gmelin サメビタキ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.9.25 V T R)

Muscicapa latirostris Raffles コサメビタキ (スズメ目 ヒタキ科) (2000.9.29 ひょうたん池 藤村仁氏)

Fringilla montifringilla Linnaeus アトリ (スズメ目 アトリ科) (2000.10.27 イモリの池 藤村仁氏)

Uragus sibiricus sanguinolentus (Temminck et Schlegel) ベニマシコ (スズメ目 アトリ科) (2000.1.22,
11.4 以上水生植物園 藤村仁氏)

11.4は2♀が目撃された。

引用文献

福田晴夫他8名. 1982. 原色日本蝶類生態図鑑 (I). 277pp. 保育社.

久居宣夫. 2000. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(12). 自然教育園報告, (31):1-8.

国立科学博物館附属自然教育園. 1984. 国立科学博物館附属自然教育園動植物目録. 118pp.

宮地伝三郎・川那部浩哉・水野信彦. 1976. 原色日本淡水魚類図鑑, 全改訂新版. 462pp. 保育社.

日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録, 改訂第6版. 345pp. 日本鳥学会.

桜井信夫・久居宣夫・夏目節子. 1972. 自然教育園の蝶類について. 自然教育園報告, (3):27-33.

多田実. 2000. ガビチョウが鳴く森. 野鳥, (633):4-7.

鶴田総一郎他. 1952. 国立自然教育園動物目録第1集昆虫綱. 国立自然教育園基礎資料, (1):1-42. 国立自然教育園.



図2 モンキチョウ (三枝近志氏撮影)



図3 タイアザミで吸蜜するミドリヒョウモン



図4 クロコノマチョウ (三枝近志氏撮影)